

こうちこどもファンド事業成果報告書(子ども用)

※この報告書は子どもたちが自分の言葉で書いてください。

令和 7 年 3 月 2 日

1 団体の名前

ふりがな	ねお ぼーていんぐ
団体の名前	Neo Voting

2 活動のテーマ

肥やせ君の知識、増やせ意味ある一票

3 活動の内容

① 活動の時期	② 活動の内容
2024年9、10、12月 2025年2月	・学校内で新聞掲載(計4回) 政治に関する正しい知識を楽しく身につけてもらうという目的で作成した。最近の政治に関するニュースや政治に対する疑問を解決するコーナーを取り上げて解説したり、オリジナルキャラクターの4コマ漫画を作成し、多くの人が親しみやすいような新聞作りに努めた。
2024年8月17日	・他団体のイベントに参加(とさっ子タウン) 明るい選挙推進委員会の方の依頼で高知市文化プラザ かるぽーとにて行われたとさっ子タウンにボランティアとして参加しました。 子どもたちが市民となって運営する町、とさっ子タウン内の選挙管理委員として子どもたちと選挙ポスターの作成・投票の告知などの選挙活動をしたり実際の投票箱と投票用紙を使った投票体験の手伝いをしたりした。
2024年9月3日	・文化祭でのミニ模擬投票 学校での文化祭でミニ模擬投票イベントを開催しました。 架空の市の市長選挙に参加するという設定で、市長立候補者を2人作成し、実際の投票箱と投票用紙、投票記載台を選挙管理委員会にお借りして模擬投票を生徒らに体験してもらった。このミニ模擬投票では投票の際に立候補者の公約を理解して選挙に望んだかなど投票者が思考して選挙を行ったかどうかを重視して開催した。
2024年10月～12月	・模擬投票イベントの準備 高知県の課題の一つである「働き手不足」をテーマとし、それを解決できる政策を考えることをイベント内容として作成した。また、イベント会場としてオーテピアの予約や当日に使用するスタッフTシャツ、お米や缶バッジなど集客のための景品の発注を行った。そして、イベント告知チラシの作成・当日の流れの決定など模擬投票イベントに向けた具体的な準備を進めた。
2024年12月	・イベント告知チラシ配布 模擬投票イベント周知のために市内の中学10校、高校3校にイベント告知用チラシを配布した。活動の目標として「学生に政治の知識をつけてもらう」ことがあるため中高への配布となった。
2024年12月22、28日	・模擬投票イベント オーテピア4階の部屋を借りて開催した。 22日は集会室で「働き手不足」、28日は研修室で「教育格差」をテーマにして4、5人のグループでそれぞれ政策を考え、発表する形で行った。参加者は2日間で30人程となったが、普段深く考える機会の少ないテーマにふれることができたため、イベント内容としては良いものだった。

4 まちづくりの効果

活動後の感想と、自分たちが活動して、まちがどんなふうになくなったと思うか書いてください。

<感想>

今回の活動を通して、特に印象に残ったことが二つあります。ひとつは、イベントの集客の難しさについてです。もうひとつは、イベントを通してさまざまな考え方に触れることができ、とても興味深かったということです。

まず、イベントの集客についてですが、思っていた以上に人を集めるのが難しいと感じました。最初は、自分たちで試行錯誤して生んだイベントであり、実際にとても面白い内容だと考えていたため、興味を持ってくれる人は多いはずと考えていましたが、実際に参加者を募るとなると、思うように人が集まらず、予想よりも大変でした。ポスターを作ったり、SNSで告知したり、周囲の人に声をかけたりと、様々な方法を試しましたが、成功したとはいえませんでした。例えば、ポスターを貼っても気づかれなかったり、SNSに投稿してもあまり見てもらえなかったりと、思ったような反応が得られず、どうやったらもっと多くの人に興味を持ってもらえるのかということを考えさせられました。

この経験から、イベントの内容が良いだけではダメで、それをどうやって広めるかも重要だと学びました。ターゲットとなる人たちに合わせた宣伝方法を考えたり、キャッチコピーを工夫したりすることで、もっと関心を持ってもらいやすくなるのではないかと思います。また、「イベントに参加するハードルを下げる」ことも大切で、たとえば時間帯や場所を工夫したり、友達と一緒に参加しやすい雰囲気を作ったりすることが、集客には効果的なものかもしれないと感じました。どうしても政治というテーマとなると、難しいというイメージを持つ人が多く、そのイメージを完全に払拭することができず、たくさんの参加者を招く、ということではできませんでした。また、イベントに参加すること自体がめんどろだと感じる人がいるということも含めて対策することができず、このことも、集客ができなかった原因の一部となっていると考えました。

もうひとつ感じたことは、イベントを通していろいろな考え方を知ることができたのが面白かったということです。今回のイベントでは、他校の人も参加していたので、それぞれ違った視点から意見を出して、新鮮でした。

例えば、同じテーマについて話していても、異なる意見が飛び交っており、ひとつの問題に対していろいろな考え方があるのだと実感しました。また、意見が違っても対立するのではなく、「なるほど、そういう考えもあるんだ」とお互いに理解し合いながら話ができただけがすごく良かったです。普段の会話では深く議論する機会がありませんので、自分の考えを整理するきっかけにもなったし、他の人の話を聞くことで新しい発見もありました。

今回の活動を通して、イベントを成功させるにはただ企画を立てるだけでなく、人を集めるための工夫が必要だということを知りました。また、多くの人の意見を聞くことで、自分の考えが深まるだけでなく、新しい視点を獲得することができたのも貴重な経験だったと思います。

<まちが良くなったと思うこと>

今回のイベントを通じて、私たちが住む町がより良くなったと実感したこととして、このイベントに参加したことで、政治の難しさや仕組みについての理解が深まったという点が挙げられます。政治というと、どうしても難しく遠い存在のように感じられがちですが、実際に話し合いを重ねることで、「政治とは、私たちの生活に深く繋がっており、自分たちの意見が反映されるべきものだ」という意識が芽生えたのではないかと思います。政治の意思決定には、多くの議論や対立、矛盾があり、一筋縄ではいかないことも多いですが、それこそが民主主義の本質であり、だからこそ私たち一人ひとりの意見や関心が重要なのだと気づききっかけになれたと思います。また、イベント中のテーマに対する発表準備時間も、町の未来を考える上で非常に大切なものだと思います。例えば、具体的な統計データや事例を調べたりすることで、単なる「意見」ではなく、実際の事実に基づいた主張が行えていました。こうしたプロセスを経ることで、机上の空論になるのではなく、根拠を踏まえた主張ができたことにより説得力のある発表を行うことができたと思います。またその主張を共有し合うことで、自分の見聞も広げることができたと思います。実際に自分で調査を行い、情報を集め、それをもとに議論を深めるという経験は、今後の学びにも活かされる貴重なものだと思います。さらに、このイベントでは、実際の投票用紙や投票箱を使用して投票を行う機会が設けられました。選挙権を持つ年齢に達していない人にとって、投票という行為はどこか遠い未来の出来事のように感じられることが多いかもしれませんが、今回、実際の投票と同じ流れで投票を行ったことで、実際に選挙に対するイメージを持つことができたのではないかと思います。これによって、将来自分たちが選挙に参加する際の心構えを持つことができ、政治への関心を高める大きなきっかけになれたと思います。このように、この活動によってまちがよくなったところはたくさんあると考えます。そのため今後もこのような活動を行なっていき、規模も拡大させて取り組んでいきたいと思っています。

5 気づきポイント

活動を通して気づいたことや工夫したこと、反省点などがあれば書いてください。

＜活動前にたてた目標や計画通りにできなかったところ＞

私たちが活動前に掲げた目標は「正しい知識を持って意味のある投票をする人を増やす」といったものでした。この目標の対象者を特に、まだ選挙権を持たない中学生や、来年には投票のできるようになるかもしれない高校生などの若年層にしていました。選挙権を持っていない人たちにわかりやすく、また自分で考えられるように正しい知識を提供し、意味のある投票ができるようになってもらうために、私たちは新聞を作り、模擬投票イベントを開催することにしました。新聞作りは月に1回自分達で選んだ政治関連のニュースをわかりやすく解説したり、選挙についての豆知識を私たちの作り出したキャラクター(センギョくん、トウヒョウオくん)を使って四コマ漫画で発信しました。模擬投票イベントは、働き手の不足や教育の質の向上など具体的な問題を提示し、それに沿った政策をグループで考えてもらいました。

＜なんでできなかったのか、何につまづいたのか＞

新聞の月1発行が上手いかなかった理由は私たちのタイムスケジュール管理の甘さと、「政治」というトピックの扱いの慎重さを欠いたことと、新聞づくりの大変さを見誤っていたことでした。12月に開催した「VoteでGo」ではテスト期間直前や終えたのちに準備を進めてしまいイベントの告知チラシの配布やグッズの手配、講評者の手配などがギリギリになってしまいタイムスケジュールの管理不足を感じました。また集客も一筋縄ではいかず2日間で30人程度でした。集客が上手いかなかった理由として、「興味がない」「日が合わない」「めんどくさい」などがありました。トピックの扱いの面では政治の知識を発信する上で大切なことは「中立性」であり先生からのチェックや、客観的な見方で詰まってしまうことがありました。

＜つまづいたとき、活動を進めていくためにどんな工夫をしたか、または、どうすればよかったと思うか＞
まず、工夫することが出来た点についてです。

模擬投票イベント1日目を終えたあとアドバイザーや大人との反省会で、「働き手の不足というお題は難しい」と指摘を受けました。そのため私たちは1週間の間に自分たちの身近にある話題や問題から「教育格差」というお題に変更して2日目のイベントを行うという工夫を行うことが出来ました。その結果1日目よりも具体的なものだったり創造性の高い案をたくさん出すことに繋がりました。

次に、工夫することが出来なかった点についてです。新聞作成のタイムスケジュールの管理が疎かになってしまったことについては「締切の管理をしっかりする」や「余裕を持った日時に設定する」のように振り返ることができました。また模擬投票イベントに人が集まらなかったことについては他校にチラシを配るだけではなく生徒会にも声をかけて一定数の参加者を確保することも大切であったと振り返りました。

6 今後の展望など

今後自分たちの活動をどのように続けていきたいかなど、自由にご書いてください。

今後の展望として、活動の幅をさらに広げていこうと考えています。今年度の活動を振り返ると、私たちの目標は「正しい知識を持って理由のある投票を行う人を増やす」というものでした。この目標は、民主主義を支えるために正しい情報に基づいて投票することが必要不可欠であると考察しています。しかし、活動目標のハードルが予想以上に高かったため、結果的に目標は達成することができましたが、その達成感に満足できない部分も残りました。それは、活動があまりにも小規模になってしまったからです。今年度のイベントに参加してくれた30人ほどの参加者には、選挙に対する正しい知識を提供し、少なからず未来の投票率の向上に貢献できたと自負しています。しかし、2日間で30人という規模は、正直なところもっと多くの人に影響を与えられると考察していたために少し物足りなさを感じました。勿論、目標は達成したのですが、その規模感に対しては納得しきれない部分がありました。20万円という助成金を受けて行う活動であるからこそ、もっと多くの人々に投票や政治に関心を持ってもらいたいという思いが強くなりました。せっかく自主的に行っている活動なので、もっと大きな成果を上げて、より多くの人々に投票に行くことや政治への関心を持ってもらいたいと感じました。これが今年度の活動の反省として心に残っています。

さらに、選挙に参加しない人、また「選挙に行くのが面倒くさい」という理由で投票しない人々をターゲットにしたイベントや活動が不足していたことも反省点の一つです。私たちの活動は、すでに投票に関心のある人々を対象にしている部分が多かったため、選挙そのものに興味を持っていない層には届きにくかったのではないかと分析しています。私たちの活動が、投票を促すことに関して一定の成果を上げる一方で、選挙に行く意欲が湧かない人々に対して、もっと効果的なアプローチが必要だったと感じています。そこで、来年度の活動においては、さらに幅広い層にアプローチすることを目指していきたいと考えています。今後は、選挙に行かない人々や、政治に興味がない人々にも、積極的に投票に行くことの重要性を伝えていく必要があります。例えば、投票に行くことが面倒くさい、時間がないと感じている人々に対しては、より手軽で負担の少ない形で投票に参加できる方法を提案することが効果的であると推察しています。また、政治への関心が薄い人々には、政治が私たちの生活にどれほど深く関わっているのかを実感できるような活動を行うことが必要です。

さらに、活動の対象を広げるためには、既存の活動内容や手法に加え、さまざまな分析を通じて新たなアプローチ方法を模索していくことが重要です。例えば、参加者の関心をより詳細に把握し、どのような人々にどのような形でアプローチすれば効果的なのかを見極めることが、より大きな成果に繋がると考えています。また、SNSやオンラインイベントなどを活用し、より多くの人々にアプローチできるような方法を検討していきたいと思います。

来年度は、選挙に行かない人々や政治に無関心な人々にも投票を促す活動を行い、その結果として投票率の向上に貢献できるよう、しっかりと準備を進めていきたいと考えています。そして、より多くの

7 活動の様子がわかる絵や写真があれば紹介してください ♪



令和6年度決算報告書

収 入	収入の内容	予算額	決算額	内訳(単価・人数など)
	ファンド助成金	175,300 円	78,737 円	
		円	円	
		円	円	
	合 計	175,300 円	78,737 円	

支 出	支出の内訳	予算額	決算額	内訳(品名・単価・個数など)
	イベント場所代	22,000 円	18,530 円	オーテピア 集会室(13～17時まで)8,800円 研修室(13～17時まで)9,730円 ⑤
	チラシ・ポスター紙代	10,000 円	9,328 円	A3用紙 500枚 A4用紙 500枚 ⑥
	謝礼金	40,000 円	1,000 円	駐車場代 1,000円 ④
	イベント優勝景品	24,720 円	20,284 円	シャインマスカット二房 6,662円(5,292円+送料1,370円)×2 お米5キロ(送料込み) 3,480×2 ②③⑦
	参加賞	38,220 円	10,684 円	缶バッチ, アクリルキーホルダー 4,880円(送料込) お菓子 5,804円 ⑧⑨⑩
	スタッフTシャツ作成費	13,000 円	15,466 円	一着あたり2,431円×6=14,586円 送料 880円 ⑪
	スタッフ用飲料水	4,500	0 円	
	ビニール袋	300	0 円	
	雑費	10,000	3,445 円	交通費 620円×2 (路面電車・朝倉～菜園場 往復) 模造紙・名札・紙袋など ①②⑬ ⑭⑮
	配送料	12,560 円	0 円	
	合 計	175,300 円	78,737 円	